

令和7年度ウミガラス保護増殖検討会

2025年12月22日（月）

資料3-3
天売島におけるドブネズミ対策に
ついて

NPO法人EnVision環境保全事務所

本年度の実施概要

1) 生息状況把握

- ・ 自動撮影カメラによる生息状況調査
- ・ 噛み跡トラップによる生息状況把握
- ・ 踏査による海鳥の被害状況把握
- ・ 住民への聞き取り調査

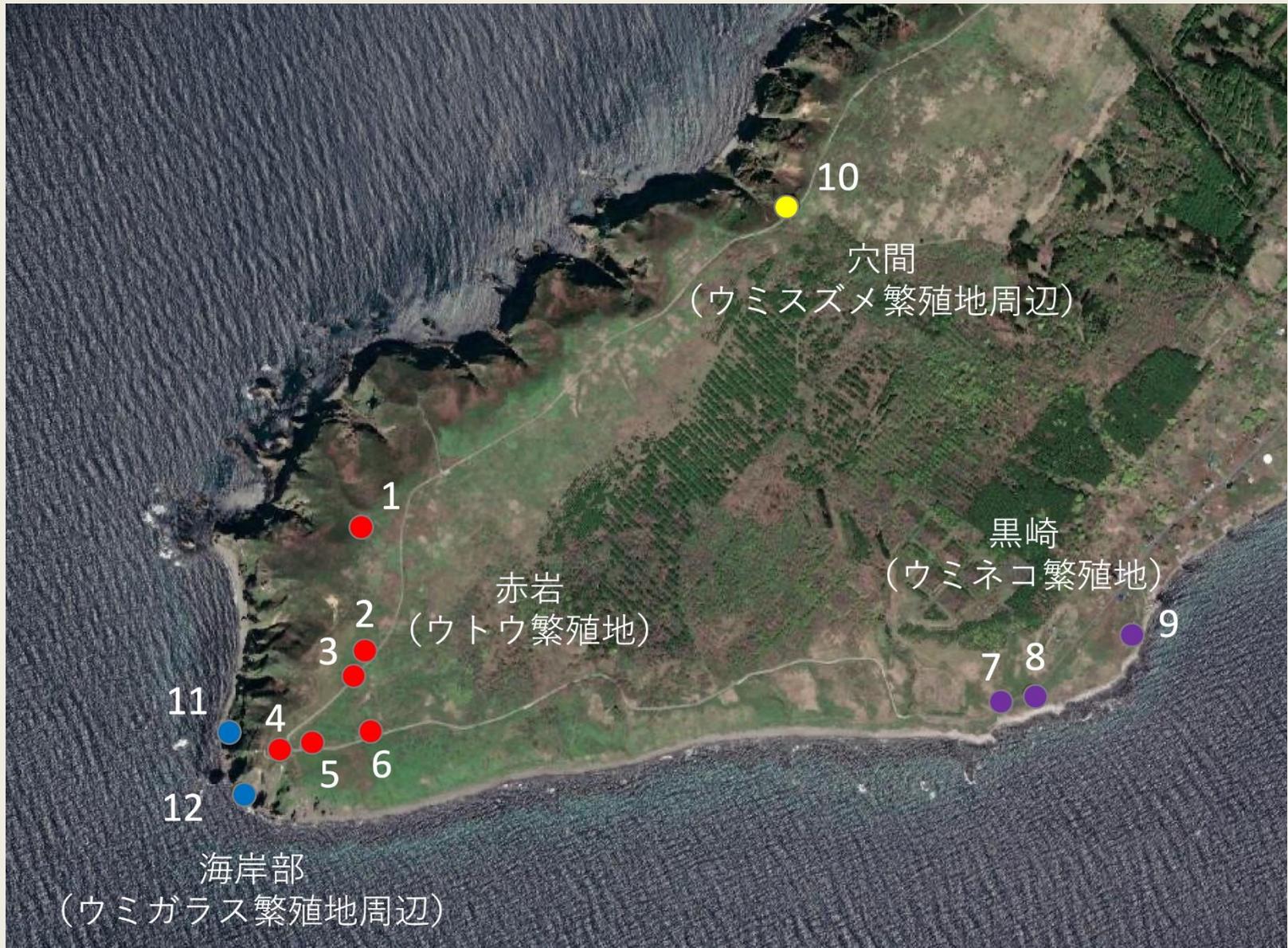
2) 防除対策

- ・ GoodNatureA24 による防除
- ・ ベイトステーションによる防除

自動撮影カメラの設置

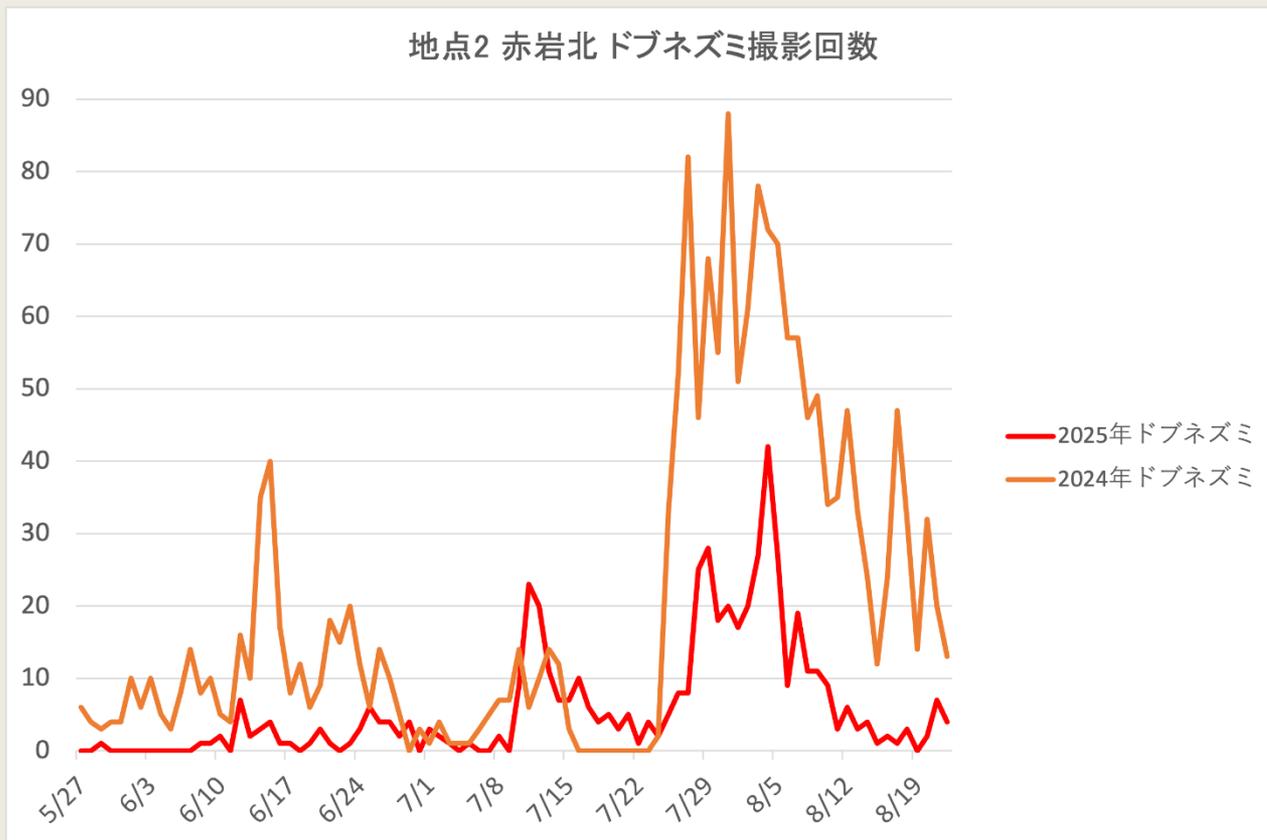


自動撮影カメラの設置場所



ドブネズミの撮影枚数

- 赤岩周辺



期間合計: 518回

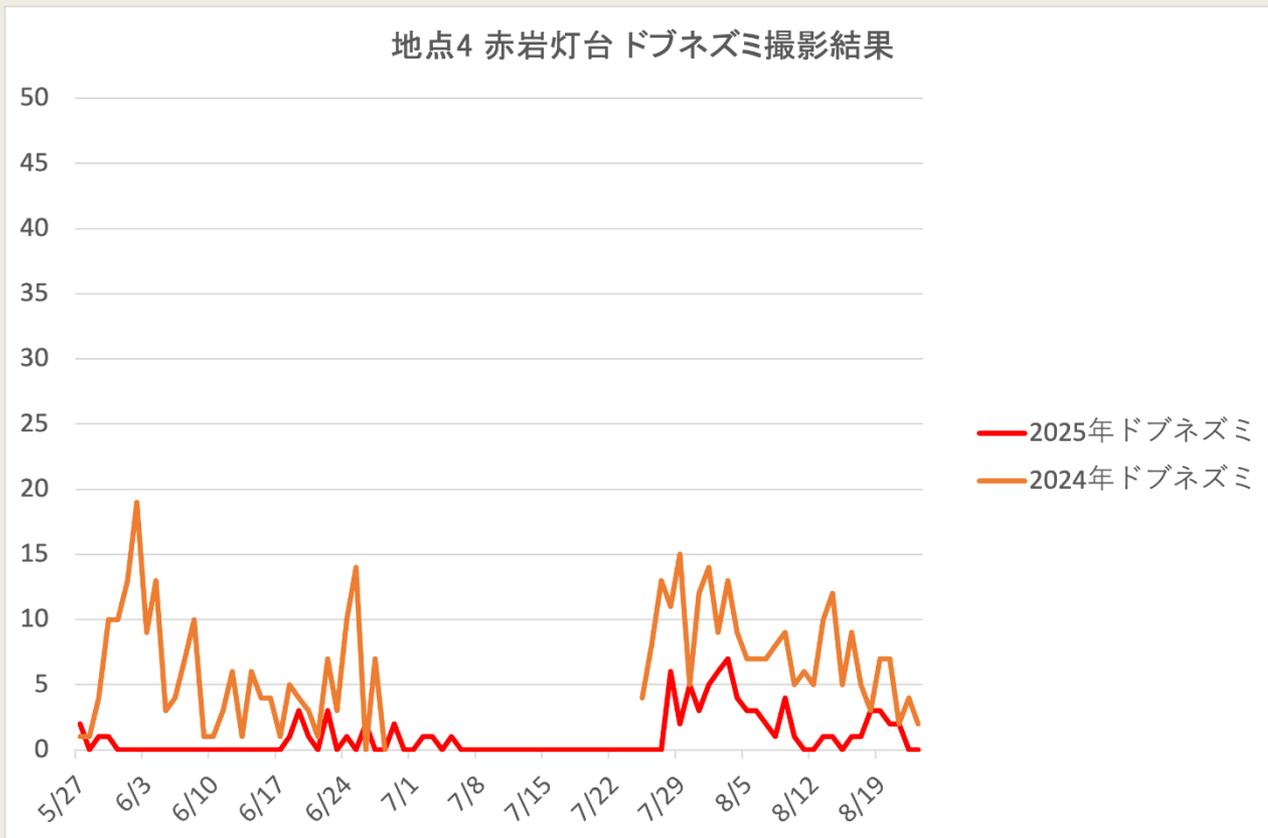
R6年同期間: 1783回

設置期間: 5月27日～8月22日

ドブネズミの撮影枚数

- 赤岩周辺

地点4 赤岩灯台 ドブネズミ撮影結果



期間合計: 86回

R6年同期間: **418回**
※カメラ転倒により撮影
のなかった期間を含む

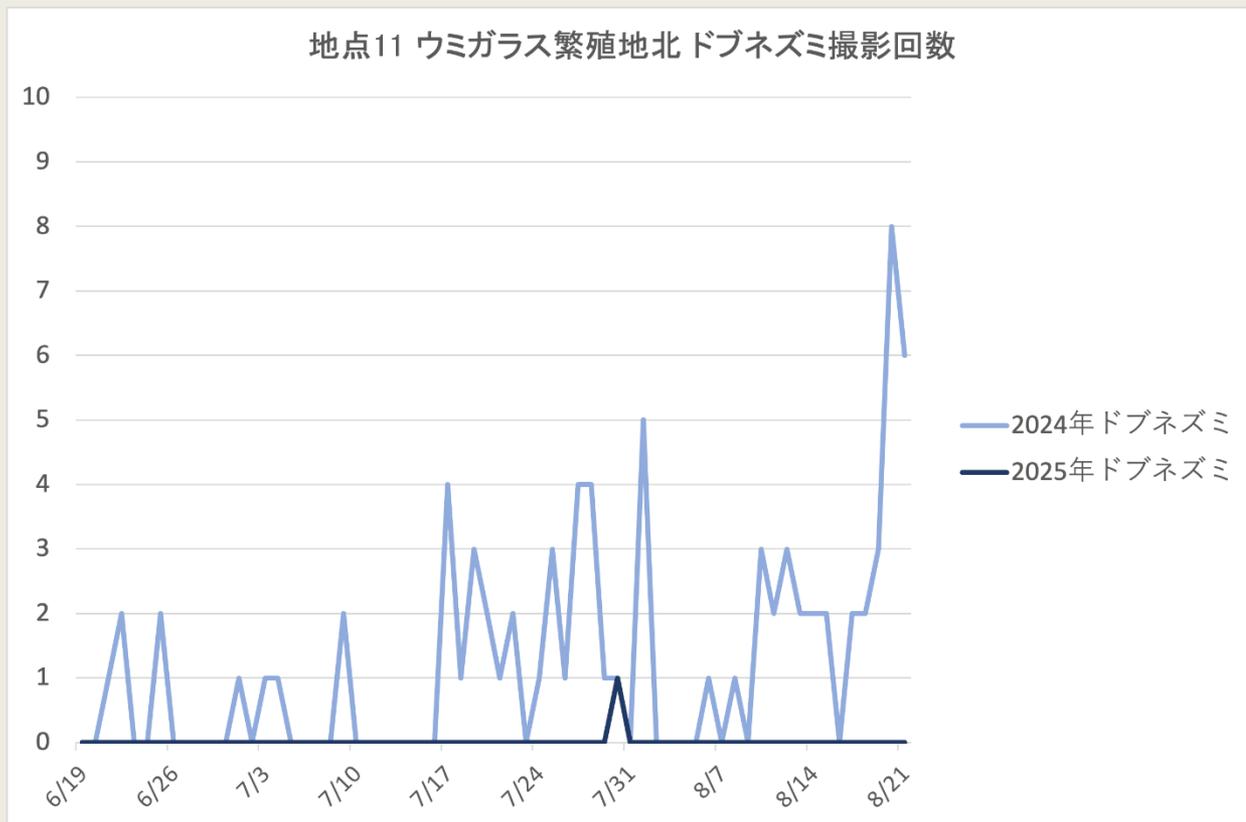
設置期間: 5月27日～8月23日

ウミガラスの繁殖巣棚の近辺



ドブネズミの撮影枚数

- ウミガラス巣棚周辺



期間合計: 1回

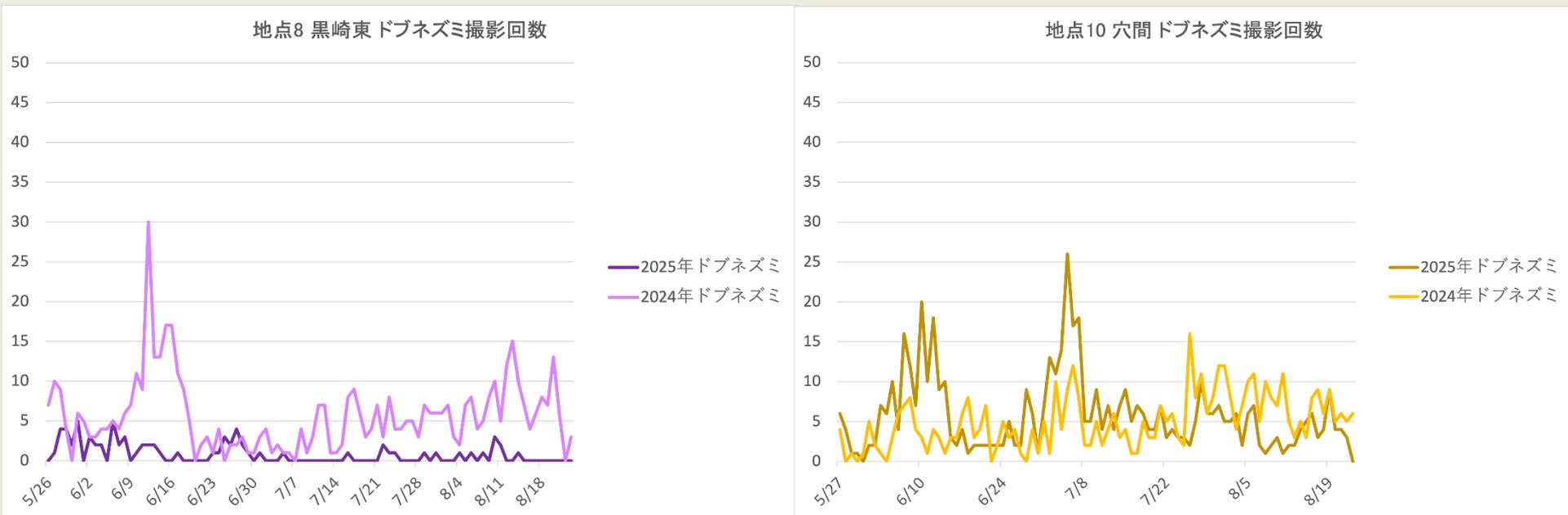
R6年同期間: 80回

海岸部の別地点でも
撮影は1回のみ
(地点12)

設置期間: 6月19日～8月21日

ドブネズミの撮影回数

- 防除を実施していない赤岩周辺以外の地点



R6年 **513**回 → 今年 74回

R6年 445回 → 今年 516回

→ 全島的に個体数は少なかったと考えられる

本年度の実施概要

1) 生息状況把握

- ・ 自動撮影カメラによる生息状況調査
- ・ 噛み跡トラップによる生息状況把握
- ・ 踏査による海鳥の被害状況把握
- ・ 住民への聞き取り調査

2) 防除対策

- ・ GoodNatureA24 による防除
- ・ ベイトステーションによる防除

噛み跡トラップ (Chew Card)

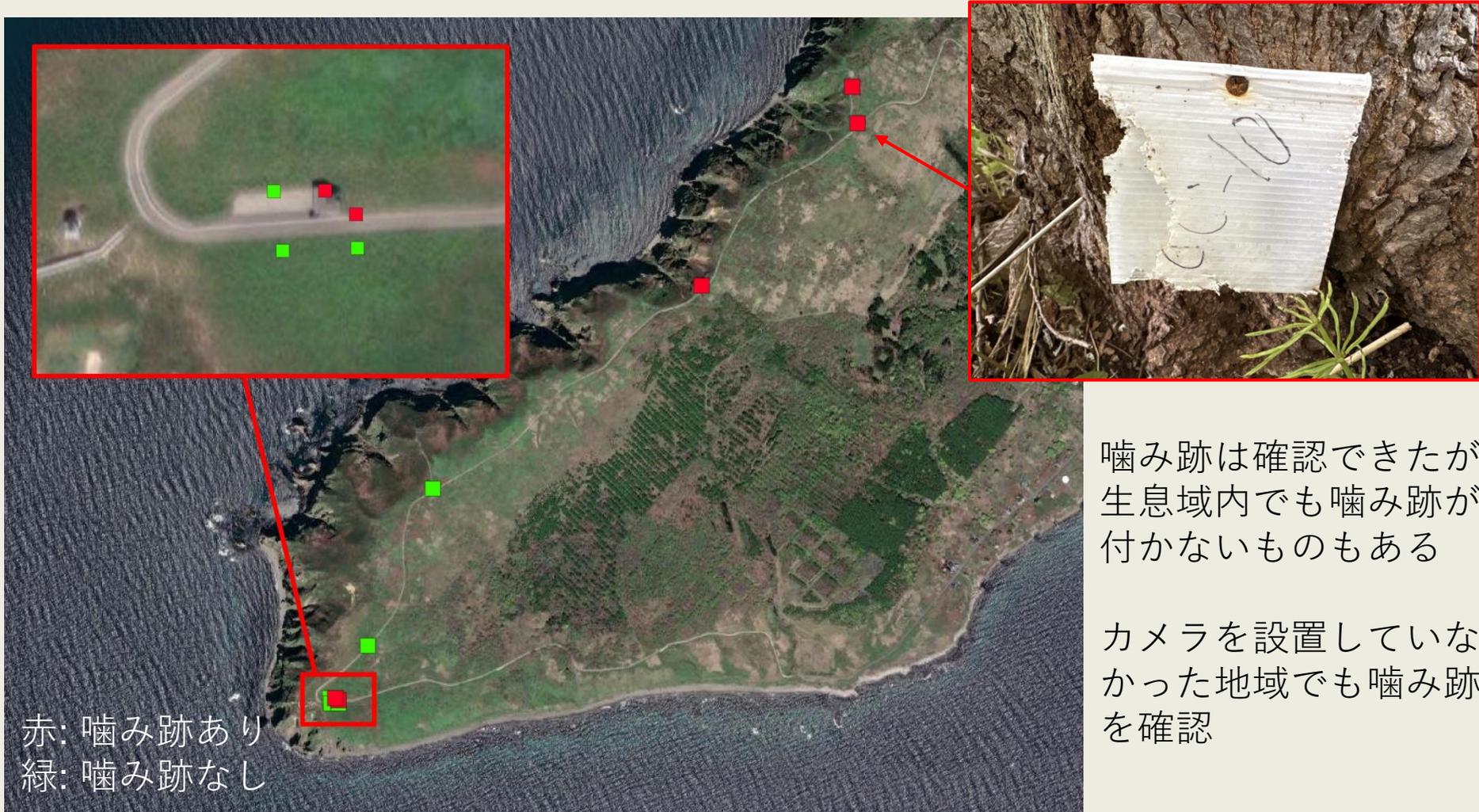
- 自動撮影カメラのスタジオのような面積が不要
- 安価でたくさん作れる
- 設置が容易
- メンテナンスを必要としない

→岩壁などの生息状況把握のツールとして検討



噛み跡トラップ (Chew Card)

- 既知のドブネズミ生息範囲を中心に設置 (5/28設置、6/26回収)



噛み跡トラップ (Chew Card)

- モニタリングが困難な海岸部に設置 (7/9設置、8/22回収)



赤: 噛み跡あり
緑: 噛み跡なし



噛み跡を1か所で確認

ネズミの在・不在の
確認には有効

設置数や期間、材料等
改善の余地あり

本年度の実施概要

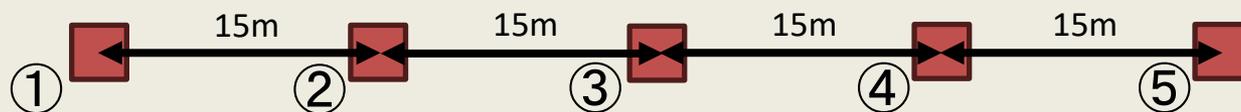
1) 生息状況把握

- ・ 自動撮影カメラによる生息状況調査
- ・ 噛み跡トラップによる生息状況把握
- ・ 踏査による海鳥の被害状況把握
- ・ 住民への聞き取り調査

2) 防除対策

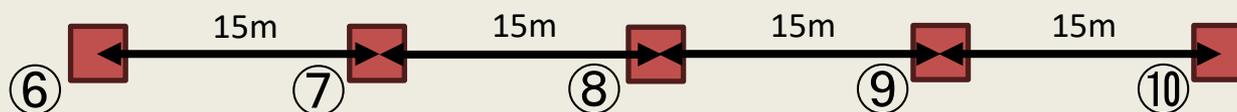
- ・ GoodNatureA24 による防除
- ・ ベイトステーションによる防除

GoodNatureA24 による防除



道路

× 2区画



一社) おらが島活性化会議と共同で設置・点検

GoodNatureA24 による防除



設置期間: 5月28日～10月2日 (128日) (R6年: 102日)

設置基数: 2区画20基 (R6年: 同じ)

GoodNatureA24 による防除

・設置地点ごとの作動回数

地点ID	6月作動回数	7月作動回数	8月作動回数	撤去時作動回数	合計
GN-01	1	1	1	1	4
GN-02	1	0	0	3	4
GN-03	1	1	0	4	6
GN-04	0	0	1	2	3
GN-05	1	0	0	2	3
GN-06	0	2	1	1	4
GN-07	1	0	0	0	1
GN-08	1	1	3	1	6
GN-09	1	0	3	3	7
GN-10	0	0	0	3	3
GN-11	2	0	0	0	2
GN-12	2	4	0	0	6
GN-13	3	0	1	2	6
GN-14	6	12	0	3	21
GN-15	1	3	4	7	15
GN-16	2	0	0	0	2
GN-17	2	0	0	0	2
GN-18	1	2	0	1	4
GN-19	6	1	0	0	7
GN-20	2	1	0	1	4
合計	34	28	14	34	110

合計110回作動
(0.86回/day)
※R6年: 1.10回/day



腐敗したドブネズミの死体も確認

本年度の実施概要

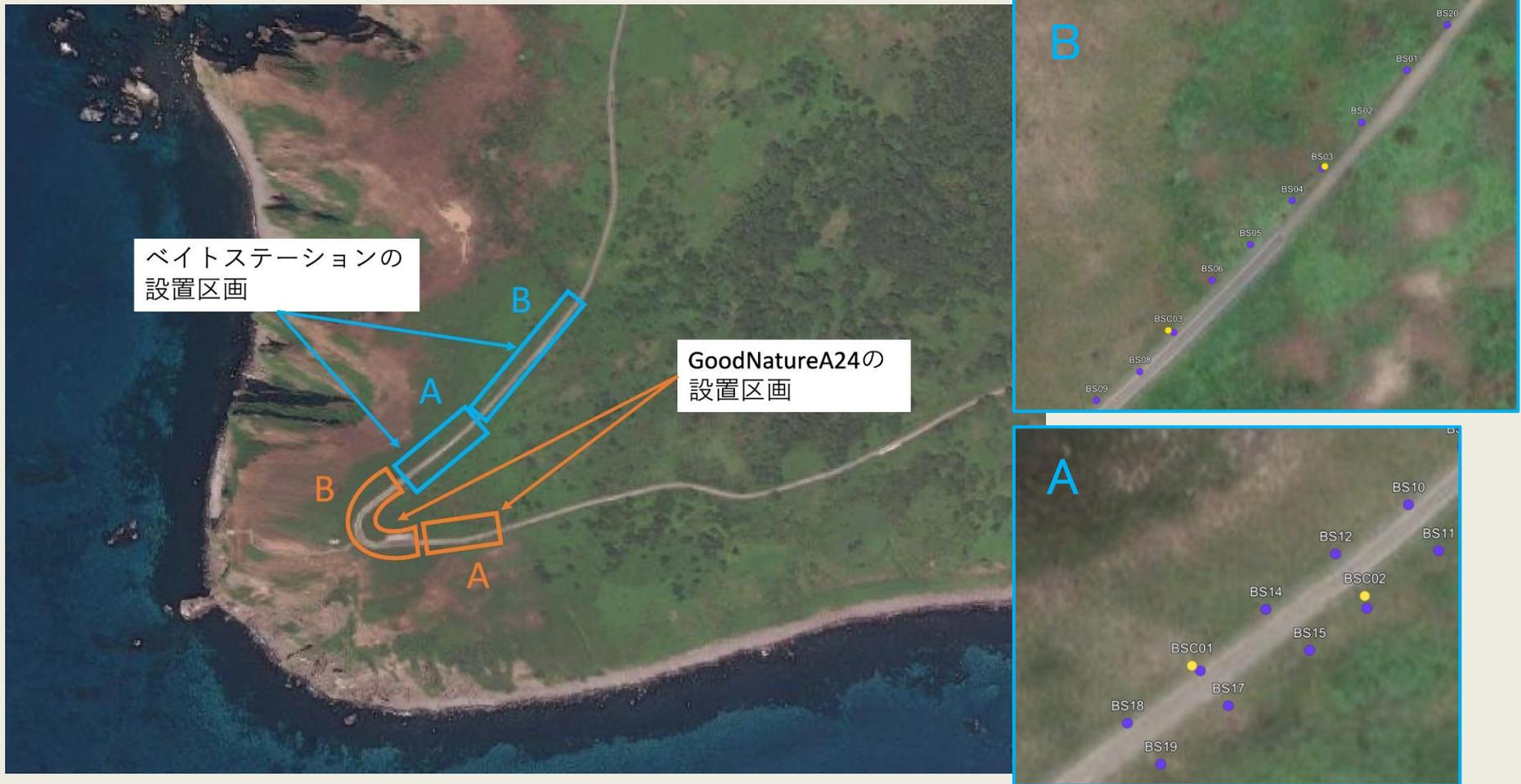
1) 生息状況把握

- ・ 自動撮影カメラによる生息状況調査
- ・ 噛み跡トラップによる生息状況把握
- ・ 踏査による海鳥の被害状況把握
- ・ 住民への聞き取り調査

2) 防除対策

- ・ GoodNatureA24 による防除
- ・ **ベイトステーションによる防除**

ベイトステーションによる防除



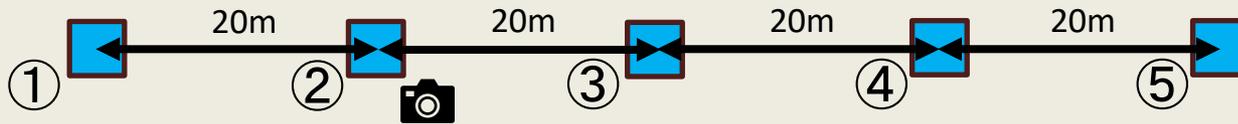
無毒餌による馴化：なし（R6年：約1ヶ月間）

殺鼠剤による防除：6月27日～8月22日（57日間）（R6年：37日）

設置基数：2区画20基（R6年：1区画10基）

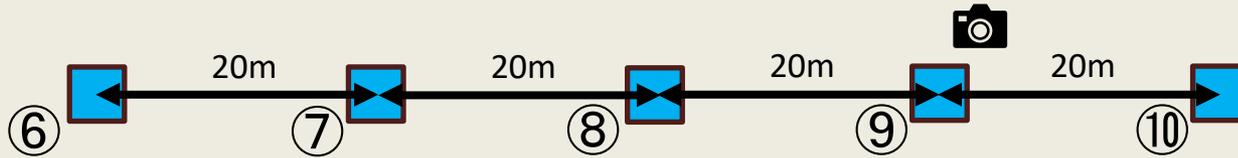
バイトステーションによる防除

- 道路の両側に設置（昨年度と同様）

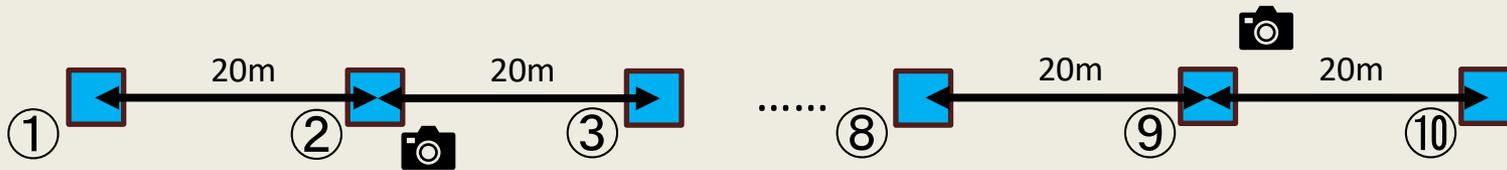


道路

× 1区画



- 道路の北側にのみ設置



道路

× 1区画

ベイトステーションによる防除

・設置地点ごとの殺鼠剤の消費量

地点	全投入量 (g)	1回目回収 (g)	2回目回収 (g)	撤去時回収 (g)	消費量 (g)
BS-01	600	0	21	92	487
BS-02	600	27	45	24	504
BS-03	600	0	0	26	574
BS-04	600	0	0	89	511
BS-05	600	0	12	20	568
BS-06	600	0	0	0	600
BS-07	600	0	97	0	503
BS-08	600	53	0	46	501
BS-09	600	0	57	7	536
BS-10	600	0	95	100	405
BS-11	600	200	168	114	118
BS-12	600	52	147	85	316
BS-13	600	200	200	62	138
BS-14	600	0	102	67	431
BS-15	600	200	200	0	200
BS-16	600	0	27	0	573
BS-17	600	0	172	63	365
BS-18	600	0	0	0	600
BS-19	600	200	51	38	311
BS-20	600	0	63	69	468
合計	12000	932	1457	902	8709

全地点合計で
約**8.7kg**の
殺鼠剤を消費

※R6年: 約1.8kg

致死量換算
(体重250g) で
約330~550個体分

バイトステーションによる防除

・設置地点ごとの殺鼠剤の消費量

地点	全投入量 (g)	1回目回収 (g)	2回目回収 (g)	撤去時回収 (g)	消費量 (g)
BS-01	600	0	21	92	487
BS-02	600	27	45	24	504
BS-03	600	0	0	26	574
BS-04	600	0	0	89	511
BS-05	600	0	12	20	568
BS-06	600	0	0	0	600
BS-07	600	0	97	0	503
BS-08	600	53	0	46	501
BS-09	600	0	57	7	536
BS-10	600	0	95	100	405
BS-11	600	200	168	114	118
BS-12	600	52	147	85	316
BS-13	600	200	200	62	138
BS-14	600	0	102	67	431
BS-15	600	200	200	0	200
BS-16	600	0	27	0	573
BS-17	600	0	172	63	365
BS-18	600	0	0	0	600
BS-19	600	200	51	38	311
BS-20	600	0	63	69	468
合計	12000	932	1457	902	8709

赤枠：道路の北側に設置したバイトステーション
＝消費量が多い

側溝等の微小な地形が餌の発見率と関係している？

ベイトステーションの安全性について

- 殺鼠剤の漏出はなし
- 非標的種の死体や痕跡は確認されず
- 進入確認用の自動撮影カメラでは、ネズミ（ドブネズミ、エゾヤチネズミ）が2800枚以上撮影（種ごとの撮影枚数は未解析）
- 非標的種*は119枚撮影されたが、いずれも侵入は確認されず
 - * ウトウ、ノゴマ、アオジ、ヤマシギ等

ドブネズミ



エゾヤチネズミ



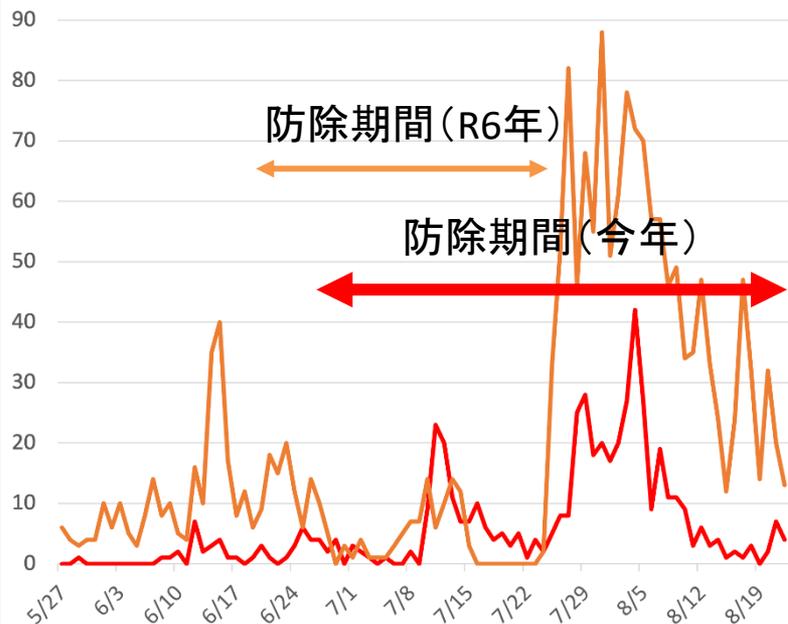
非標的種（ノゴマ幼鳥）



ベイトステーションの防除効果

- 防除実施区域の自動撮影カメラの撮影状況

地点2 赤岩北 ドブネズミ撮影回数



地点4 赤岩灯台 ドブネズミ撮影結果



設置基数、設置期間ともに規模を拡大
→8月の撮影回数が減少

防除の強度を上げたことで個体数の増加を抑制できた？

まとめ

- ・ 昨年度よりも全体的にドブネズミは少なかった
→ウミガラス繁殖地付近でもほとんど確認されず
- ・ 噛み跡トラップ
→在・不在の簡易的な確認手法として有効
- ・ GoodNatureA24
→地域と連携し継続的な防除体制へ
- ・ ベイトステーション
→ドブネズミ個体数の抑制に効果があると期待された
→より効果的な設置場所や時期の検討を続ける